

# 災害時におけるペット飼育者と非-飼育者の「共生」への課題

－避難所でのペット同行避難対応の事例から－

大谷大学 徳田 剛

## 1. 目的

地震や津波などの激甚災害によって住宅に大きな被害が出た場合、それはペット飼育者自らの居住スペース、すなわちペット（愛玩動物）と安心して暮らすことができる飼育環境が失われることを意味する。近年では、災害後の避難時には「ペット同行で避難すること」が推奨されている。アニコム損保によるインターネットでの調査（2016年9月、有効回答3478件）では、災害時には96.3%の回答者がペットと「(必ず・できるだけ)一緒に避難する」と回答しているが、「住んでいる地域の防災対策」については「わからない」が76.9%、「ペットと一緒に避難訓練をしたことがない」が94.7%となっており、ペット同行避難者の避難所への殺到と混乱が懸念される。

それに対し、ペット同行避難者の受け入れに関する地域の避難所の対応については、各地域や避難所ごとに対応がまちまちなのが現状である。実際に過去の災害発生時に多くの避難所ではペット受け入れが拒否され、行き場を失った飼い主が長期にわたる車中避難を行ったり、倒壊の危険のある自宅に戻って飼育を続けたりするなどのケースが散見されている。

その中であって、2000年代の新潟における2度の地震災害および2011年の東日本大震災における福島県などからのペット同行避難者への対応は、災害発生時の被災ペットや飼い主の支援、避難所における飼い主と非-飼い主の共生を考える上での貴重な参照事例として位置づけられる（徳田2018）。本報告では、新潟県・新潟市の地域防災計画や環境省による「人とペットの災害対策ガイドライン」などを参照しながら、地域の避難所におけるペット同行避難者への対応を通じた、ペット飼育者と非-飼育者の「共生」にかかる課題を明らかにする。

## 2. 方法

本報告では、まず過去の災害での被災ペット対応や飼育者支援の傾向を確認し、被災ペットの預かり支援からペット同行避難の推奨へとトレンドが変化してきたことを指摘する。次に、避難所の基本的な運営体制を確認し、ペット同行避難者の対応に際してはどのような課題に対処する必要があり、行政のどの部署や地域の団体が関与・対応するかを資料により提示する。その上で、災害発生時におけるペット同行避難の意識の高まりがもたらす、避難現場でのヒトと動物、飼育者と非-飼育者の良好な関係や「共生」を実現するために取り組むべき課題を明らかにする。

## 3. 結果

被災ペットを動物愛護センターや獣医師などで預かる形の避難では、飼い主の避難先においてペットと非-飼育者の接触が起こらず、避難所運営の運営形態は比較的シンプルなものとなる。しかし、避難所でペット同行避難に対応するためには、避難所の中か近隣にペットの飼育スペースの設置、ペット飼育に関する物資の調達や各種飼育支援の体制整備や非-飼育者からの苦情対応など、様々な課題への対応と（平常時には関連が薄い）複数の部署・団体間の連携が求められる。避難スペースでの飼育マナーの周知徹底や飼育者どうしのコミュニティ形成なども、円滑な避難所運営や飼い主・ペット双方のQOL向上に欠かせない取り組みとして位置づけられる。

## 参考文献

徳田剛、2018、「新潟における災害時のペット同行避難者への対応についての考察」『哲學論集』第64号、p.30-64、大谷大学哲学会